

小児死亡時対応講習会

10:40-11:00 我が国の小児死亡の現状

の登録検証システム確立に向けた
全国版後方視的調査(2014-2016年)

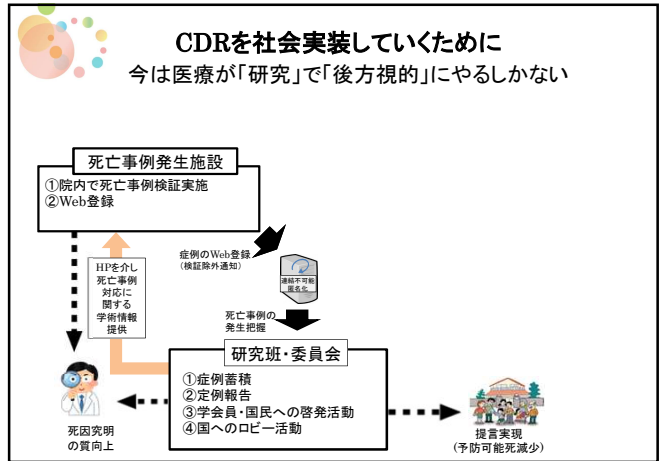
日本小児科学会 子どもの死亡登録・検証委員会
厚労科研「小児死亡事例に関する登録・検証システムの
確立に向けた実現可能性の検証に関する研究」
前橋赤十字病院小児科溝口 史剛

チャイルド・デス・レビューとは

予防可能な子どもの死亡を減らす目的で、多職種専門家が連携して系統的に死因調査を実施して登録・検証し、効果的な予防策を講じて介入を行うとする制度。欧米先進国ではすでに法制化され、子どもの死因を調査したデータを蓄積し、個人・家族・社会といったさまざまな角度から検討され、予防施策に生かされてきた。

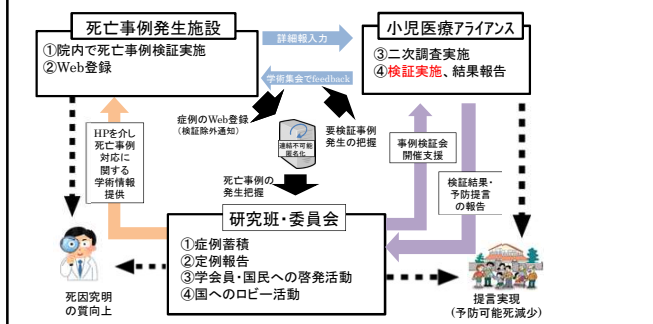
第193回通常国会で通過した、児童福祉法及び児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律の衆議院附帯決議で「六 虐待死の防止に資するよう、あらゆる子どもの死亡事例について死因を究明するチャイルド・デス・レビュー制度の導入を検討すること」と言明された

→自民党内の「死因究明体制推進に関するプロジェクトチーム」(座長:石井みどり参議院議員)でも検討が開始され、厚労省内でCDRのPTが設置され、検討が開始されている。



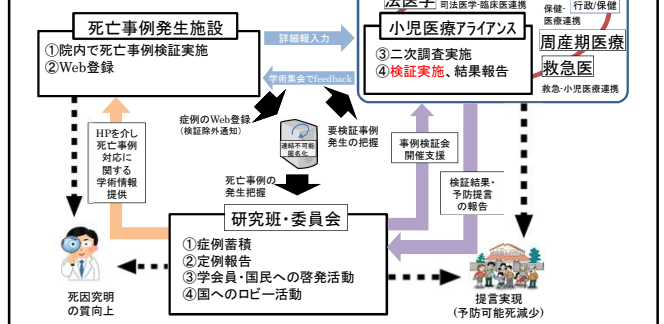
地域で「文化」を作っていく

提言の実効性を高めていくためには、地域の医療者間のアライアンスでより客観的で重層的な検証を行い、死亡事例の共有化を図る必要がある



CDRを社会実装していくために

地域でともした「文化」の火を、多機関に広げる。本研究のゴールは、多機関連携でのCDR実施の協議体を形成し、「まず1回」実施するまで



研究の進捗状況

中央施設として、前橋赤十字病院、小児科学会のIRB通過

↓

小児科専門委研修施設(508施設)のうち
205施設(40.4%)より参加意思表示

↓

地区担当者を定め、IRB申請支援、登録支援実施中
現在約300名が事例登録中

4000(人) × 3(年) × 0.4(参加施設)
× 2/3(小児医療ネットの限界) × 0.8(登録目標)
= 2560(目標登録数)

年度内に可能な限りIRB申請を済ませ、
8月末までに登録を終了したい

○ は具体的な多機関での
CDR実施についての検討が
開始された地域

○ は具体的に多機関参加
のCDRが試行された地域

緑は、共同研究施設としての登録あり
黄緑は、複数の研究協力施設あり
黄色は、研究協力施設あり

火の起こし方

ちんちん合うが たしかめる

火がつかない

CDRの必要性を
認識する

↓

実施の仕組みを整える
(→研究計画を立てる)

↓

研究に参加の意思を示す

火がつかないよ

火がつかないよ

現場の先生方!

研究班提言のCDR社会実装モデル

緑の数字は人口200万程度のモデル地区の対象事例数

小児死亡の発生

一次スクリーニング
(ケースロード 原則30分/1例)

二次スクリーニング
ケースロード 原則10分/1例
一次スクリーニングの妥当性をあわせて検証

提言実行の
トラッキング

Annual feedback

個別事例の情報を排した情報公開

ナショナル
データセンター

事例情報を排した
図の字び

具体的な、登録検証の方法については、午後に体験していただきます

Child Fatality Review Sample Case
TEAM LEADER

研究班のHP上に、様々なコンテンツを
今後upしていく予定です。ぜひご確認下さい
(<https://www.child-death-review.jp/>)

CDR 研究班

検索